

女性教員のキャリア形成における

育児と仕事の両立経験の価値

—育児効用感と力量形成の実感に着目して—

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

山本 咲衣

本研究は、女性教員が経験する育児と仕事の両立が、教師としての力量形成にどのような影響を及ぼすのかを、育児効用感と力量形成の実感に着目して検討したものである。先行研究では、育児経験が保護者理解や対人関係形成に資する一方、キャリア停滞の要因ともなり得る両義性が指摘されてきた。

本研究では、予備調査とインタビューをもとに育児効用感尺度と力量形成の実感尺度を作成し、子育て経験のある教員 191 名を対象に因子分析と相関分析を行った。その結果、育児効用感は「親視点獲得」と「両立ジレンマ」の 2 因子、力量形成の実感は「同僚性構築」「教師自覚」「両立援助要請」の 3 因子から構成されることが明らかとなった。特に「親視点獲得」は「教師自覚」「同僚性構築」と強く関連し、育児経験が教育実践における心理的資源として機能することが示された。一方、女性教員では両立ジレンマが力量形成に直接結びつかず、育児経験から得られる視点がキャリア形成を支える中心的要因となっていた。

以上より、育児と仕事の両立経験は、制約だけでなく専門性深化の契機として女性教員のキャリア形成に寄与することが示された。